

山田家本屋展示物について

会員 山下恒夫

山田家は、四代長昌より堅田広慶―就正の側近として

勘定役等、要職を歴代つとめ山田家五代多門の時は、一代家老もつとめた家で農業や養蚕を奨励し、大変堅田家にも貢献しており堅田家当主及び毛利重就も立ち寄っております。文人墨客が数多く止宿し、当主も大変な学者歌人で、著名な学者歌人との交流も多く、其の為貴重な資料が多く残されております。

展示物も書や短冊、又絵図、堅田家よりの判物、堅田領主使用の什器等多数があります。

展示物の主なものに、萩藩城下町絵図があり、現存する数点の中で公開されている唯一のもので、寛政時代に作られたもので大変古く正確に町名も残されておりま

す。

宝曆検地の絵図も数十点あり、その時代の暮らしの状況が理解出来るものとして、又藩の境界が一筆毎となっております、大変珍しいことが発見出来ます。

藩主の判物で、花押のあるもの等、大変古いものが多く残されております。

文人墨客の止宿の多かつた為、大変貴重な書や短冊・色紙が多く、よく保管されており特に有名人のものが多くありますが、地方の研究に役立つ。地方・特に徳山人の多くの短冊が残されており、又手紙も相当なものが残されておりますので、これら地方史を研究する為には、一級の資料であり、今後展示も各方面にわたり、展示し

研究の材料として活用が期待されます。

産業面に於いては、六代当主が萩より職人をつれ帰り、窯をささぎ陶磁器を作らせ産業をおこす等、先進の事業をおこし、戸田にも陶土があり最近迄焼かれていたように、当初からの全部作品が保存されており、現在展示しております。

このように展示も、今後テーマ毎に昔が理解されるよう資料を分類し、長く皆さん方に研究資料を提供出来るようにしたいものです。

又、武家屋敷であり、一般住宅を兼ねた珍しい住屋であり、一般とは異なる風習や家風が残されております。

